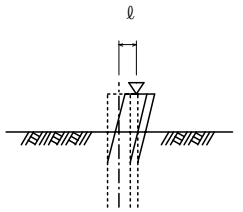
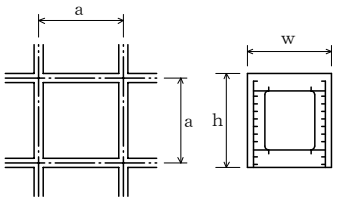
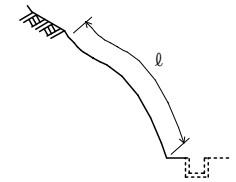
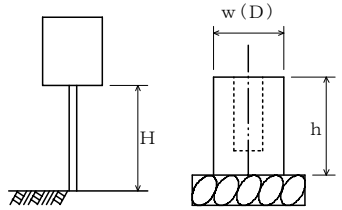
出来形管理基準及び規格値

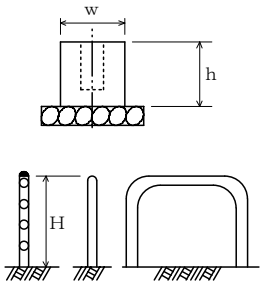
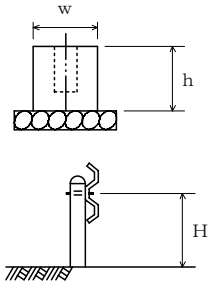
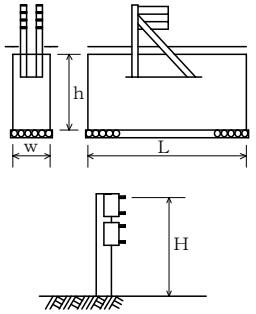
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	4		矢板工〔指定仮設・任意仮設は除く〕 （鋼矢板） （軽量鋼矢板） （コンクリート矢板） （広幅鋼矢板） （可とう鋼矢板）	基準高 ▽		±50	基準高は施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき１箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは１施工箇所につき２箇所。 変位は、施工延長 20m（測点間隔 25mの場合は 25m）につき１箇所、延長 20m（又は 25m）以下のものは１施工箇所につき２箇所。		
						根入長		設計値以上			
						変位 ℓ		100			
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	5	1	法枠工 （現場打法枠工） （現場吹付法枠工）	法長 ℓ	ℓ＜10m	−100	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき１箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは１施工箇所につき２箇所。 枠延延長 100mにつき１箇所、枠延延長 100m以下のものは１施工箇所につき２箇所。 １施工箇所毎		曲線部は設計図書による
							ℓ≧10m	−200			
						幅 w		−30			
						高さ h		−30			
						枠中心間隔 a		±100			
						延長 L		−200			
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	5	2	法枠工 （プレキャスト法枠工）	法長 ℓ	ℓ＜10m	−100	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき１箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは１施工箇所につき２箇所。 １施工箇所毎		
							ℓ≧10m	−200			
						延長 L		−200			
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	6		吹付工 （コンクリート） （モルタル）	法長 ℓ	ℓ＜3m	−50	施工延長 40mにつき１箇所、40m以下のものは１施工箇所につき２箇所。 200 ㎡につき１箇所以上、200 ㎡以下は２箇所をせん孔により測定。 １施工箇所毎		
							ℓ≧3m	−100			
						厚さ t	t＜5㎝	−10			
							t≧5㎝	−20			
							但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の 50%以上とし、平均厚は設計厚以上				
						延長 L		−200			

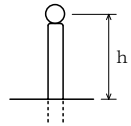
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	7	1	植生工 （種子散布工） （張芝工） （筋芝工） （市松芝工） （植生シート工） （植生マット工） （植生筋工） （人工張芝工） （植生穴工）	切土法長 ℓ	ℓ＜5ｍ	－200	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき１箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは１施工箇所につき２箇所。		
							ℓ≧5ｍ	法長の－４％			
						盛土法長 ℓ	ℓ＜5ｍ	－100			
							ℓ≧5ｍ	法長の－２％			
						延長 L		－200	１施工箇所毎		
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	7	2	植生工 （植生基材吹付工） （客土吹付工）	法長 ℓ	ℓ＜5ｍ	－200	施工延長 40mにつき１箇所、40m以下のものは１施工箇所につき２箇所。		
							ℓ≧5ｍ	法長の－４％			
						厚さ t	t＜5㎝	－10	施工面積 200 ㎡につき１箇所、面積 200 ㎡以下のものは、１施工箇所につき２箇所。 検査孔により測定。		
							t≧5㎝	－20			
							但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の 50%以上とし、平均厚は設計厚以上。				
						延長 L		－200	１施工箇所毎		
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	8		縁石工 （縁石・アスカーブ）	延長 L		－200	１箇所／１施工箇所		
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	9		小型標識工	設置高さ H		設計値以上	１箇所／１基		
						基礎	幅 w （D）	－30	基礎１基毎		
							高さ h	－30			
							根入れ長	設計値以上			

単位：mm

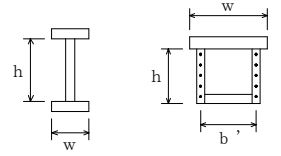
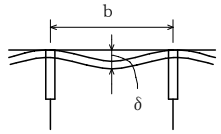
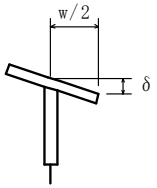
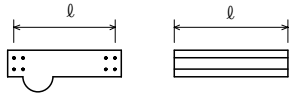
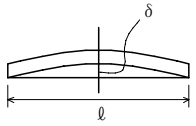
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	10		防止柵工 （立入防止柵） （転落（横断）防止柵） （車止めポスト）	基礎	幅 w	−30	単独基礎 10 基につき 1 基、10 基以下のものは 2 基測定。測定箇所は 1 基につき 1 箇所測定。		
						基礎	高さ h	−30			
						パイプ取付高 H		+30 −20	1 箇所／1 施工箇所		
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	11	1	路側防護柵工 （ガードレール）	基礎	幅 w	−30	1 箇所／施工延長 40m 40m以下のものは、2 箇所／1 施工箇所。		
						基礎	高さ h	−30			
						ビーム取付高 H		+30 −20	1 箇所／1 施工箇所		
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	11	2	路側防護柵工 （ガードケーブル）	基礎	幅 w	−30	1 箇所／1 基礎毎		
						基礎	高さ h	−30			
						基礎	延長 L	−100			
						ケーブル取付高 H		+30 −20	1 箇所／1 施工箇所		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	12		区画線工	厚さ t (溶融式のみ)	設計値以上	各線種毎に、1箇所テストピースにより測定。		
						幅 w	設計値以上			
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	13		道路付属物工 (視線誘導標) (距離標)	高さ h	±30	1箇所／10本 10本以下の場合は、2箇所測定。		

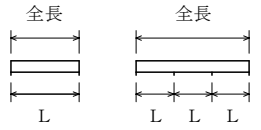
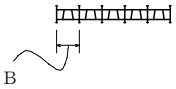
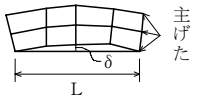
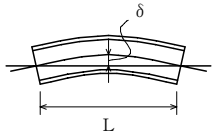
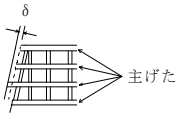
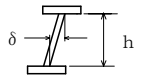
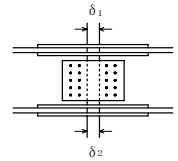
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	14	1	桁製作工 （仮組立による検査を実施する場合） （シミュレーション仮組立検査を行う場合）	部材精度	フランジ幅w（m） 腹板高　h（m） 腹板間隔b′（m）	±2…… w≦0.5 ±3…… 0.5＜w≦1.0 ±4…… 1.0＜w≦2.0 ±(3+w/2) 2.0＜w
							板の平面度δ(mm)　鋼げた及びトラス等の部材の腹板	h／250
							板の平面度δ(mm)　箱げた及びトラス等のフランジ鋼床版のデッキプレート	b／150
							フランジの直角度δ（mm）	w／200
							部材長ℓ(m)　鋼げた	±3…… ℓ≦10 ±4…… ℓ＞10
							部材長ℓ(m)　トラス、アーチなど	±2…… ℓ≦10 ±3…… ℓ＞10
							圧縮材の曲がりδ（mm）	ℓ／1000

単位：mm

測定基準		測定箇所	摘要
鋼げた等	トラス・アーチ等		
主げた・主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。		 I型鋼げた　トラス弦材	
主げた 各支点及び各支間中央付近を測定。 h：腹板高（mm） b：腹板又はリブの間隔（mm） w：フランジ幅（mm）			
			
原則として仮組立をしない状態の部材について、主要部材全数を測定。			
—	主要部材全数を測定。 ℓ：部材長（mm）		

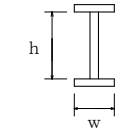
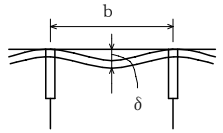
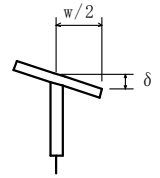
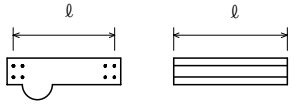
※規格値のw，ℓに代入する数値はm単位の数値である。
ただし、「板の平面度δ，フランジの直角度δ，圧縮材の曲りδ」の規格値のh，b，w，ℓに代入する数値はmm単位の数値とする。

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準		測定箇所	摘要
									鋼げた等	トラス・アーチ等		
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	14	1	桁製作工 （仮組立による検査を実施する場合） （シミュレーション仮組立検査を行う場合）	仮組立精度	全長、支間長 L（m）	±(10+L/10)	主げた、主構全数を測定。			
							主げた、主構の中心間距離 B（m）	± 4 ……B≦ 2 ±(3+B/2) ……B＞ 2	各支点及び各支間中央付近を測定。			
							主構の組立高さ h（m）	± 5 ……h≦ 5 ±(2.5+h/2) ……h＞ 5	—	両端部及び中心部を測定。		
							主げた、主構の通り δ（mm）	5+L/5…… L≦100 25……L＞100	最も外側の主げた又は主構について支点及び支間中央の１点を測定。 L：測線上（m）			
							主げた、主構のそり δ（mm）	−5〜+5……L≦20 −5〜+10…… 20＜L≦40 −5〜+15…… 40＜L≦80 −5〜+25…… 80＜L≦200	各主げたについて10〜12ｍ間隔を測定。 L：主げたの支間長（m）	各主構の各格点を測定。 L：主構の支間長（m）		
							主げた、主構の橋端における出入差 δ（mm）	設計値±10	どちらか一方の主げた（主構）端を測定。			
							主げた、主構の鉛直度 δ（mm）	3+h/1,000	各主桁の両端部を測定。 h：主げたの高さ（mm）	支点及び支間中央付近を測定。 h：主構の高さ（mm）		
							現場継手部のすき間 δ_1, δ_2（mm）	設計値± 5	主げた、主構の全継手数の１／２を測定。 δ1、δ2のうち大きいもの 設計値が 5mm 以下の場合は、マイナスを認めない。			

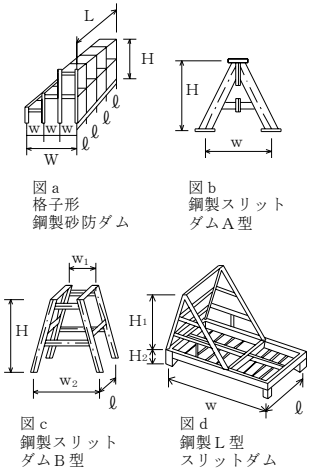
※規格値のL，B，h に代入する数値はm単位の数値である。
ただし、「主げた、主構の鉛直度δ」の規格値のｈに代入する数値はmm単位の数値とする。

単位：mm

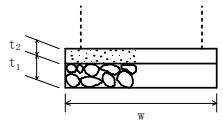
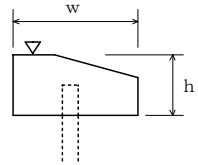
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目			規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	14	2	桁製作工 （仮組立検査を実施しない場合）	部材精度	フランジ幅w（m）		±2…… w≦0.5 ±3…… 0.5＜w≦1.0 ±4…… 1.0＜w≦2.0 ±(3+w/2) 2.0＜w	主げた、主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。	 I型鋼げた	
							腹板高 h（m） 腹板間隔 b′（m）					
							板の平面度δ(mm)	鋼げた等の部材の腹板	h／250	主げた 各支点及び各支間中央付近を測定。 h：腹板高（mm） b：腹板又はリブの間隔（mm） w：フランジ幅（mm）		
								箱げた等のフランジ鋼床版のデッキプレート	b／150			
							フランジの直角度 δ（mm）		w／200			
							部材長ℓ(m)	鋼げた	±3…… ℓ≦10 ±4…… ℓ＞10	主要部材全数を測定。		

※規格値のw，ℓに代入する数値はm単位の数値である。
ただし、「板の平面度δ，フランジの直角度δ」の規格値のh，b，wに代入する数値はmm単位の数値とする。

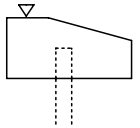
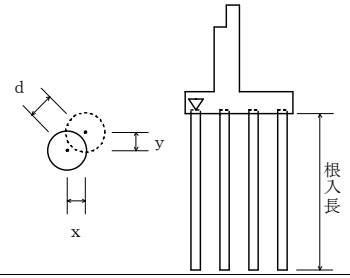
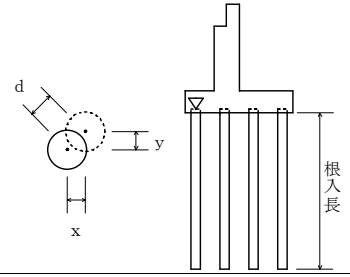
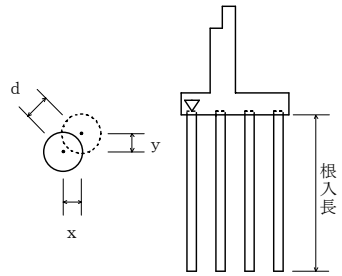
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	14	3	桁製作工（鋼製堰堤製作工（仮組立時））	部材の水平度	10	全数を測定。	 図a 格子形 鋼製砂防ダム 図b 鋼製スリット ダムA型 図c 鋼製スリット ダムB型 図d 鋼製L型 スリットダム	
						堤長 L	±30			
						堤長 ℓ	±10			
						堤幅 W	±30			
						堤幅 w	±10			
						高さ H	±10			
						ベースプレートの高さ	±10			
						本体の傾き	±H/500			
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	15		工場塗装工	塗膜厚	a．ロット塗膜厚の平均値は、目標塗膜厚合計値の 90％以上。 b．測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の 70％以上。 c．測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の 20％を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	外面塗装では、無機ジンクリッチペイントの塗付後と上塗り終了時に測定し、内面塗装では内面塗装終了時に測定。 1ロットの大きさは、500 ㎡とする。 1ロット当たり測定数は 25 点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。		

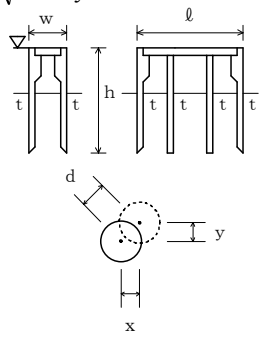
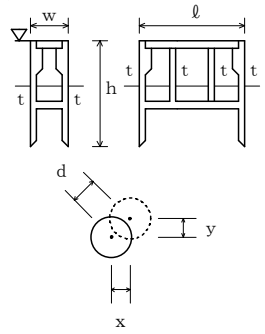
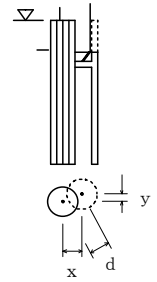
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	16		コンクリート面塗装工	塗料使用量	鋼道路橋塗装・防食便覧Ⅱ-74「表-Ⅱ.5.5 各塗料の標準使用量と標準膜厚」の標準使用量以上。	塗装系ごとの塗装面積を算出・照査して、各塗料の必要量を求め、塗付作業の開始前に搬入量（充缶数）と、塗付作業終了時に使用量（空缶数）を確認し、各々必要量以上であることを確認する。 1ロットの大きさは500㎡とする。		
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	1		一般事項 (切込砂利) (砕石基礎工) (割ぐり石基礎工) (均しコンクリート)	幅 w	設計値以上	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき1箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						厚さ t_1，t_2	−30			
						延長 L	各構造物の規格値による			
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	3	1	基礎工（護岸） (現場打)	基準高 ▽	±30	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき1箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						幅 w	−30			
						高さ h	−30			
						延長 L	−200			

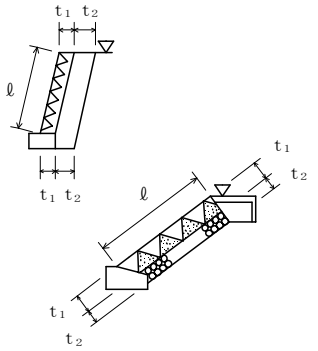
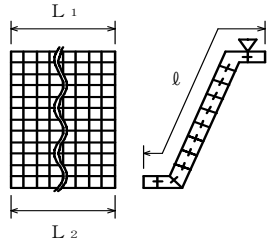
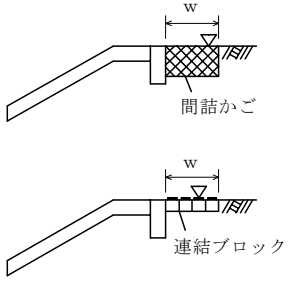
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	3	2	基礎工（護岸） （プレキャスト）	基準高 ▽	±30	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき１箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは１施工箇所につき２箇所。		
						延長 L	－200			
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	4		既製杭工 (既製コンクリート杭) (鋼管杭) (H鋼杭)	基準高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d=\sqrt{x^2+y^2}$ 	
						根入長	設計値以上			
						偏心量 d	D/4 以内かつ 100 以内			
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	5		場所打杭工	基準高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d=\sqrt{x^2+y^2}$ 	
						根入長	設計値以上			
						偏心量 d	D/4 以内かつ 100 以内			
						杭径	{設計径（公称径）-30}以上			
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	6		深礎工	基準高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d=\sqrt{x^2+y^2}$ 	
						根入長	設計値以上			
						偏心量 d	150 以内			

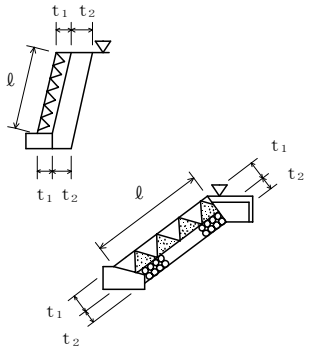
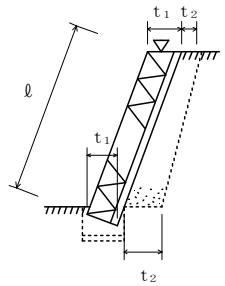
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	7		オープンケーソン基礎工	基準高 ▽	±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d=\sqrt{x^2+y^2}$ 	
						ケーソンの長さ ℓ	−50			
						ケーソンの幅 w	−50			
						ケーソンの高さ h	−100			
						ケーソンの壁厚 t	−20			
						偏心量 d	300 以内			
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	8		ニューマチックケーソン基礎工	基準高 ▽	±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d=\sqrt{x^2+y^2}$ 	
						ケーソンの長さ ℓ	−50			
						ケーソンの幅 w	−50			
						ケーソンの高さ h	−100			
						ケーソンの壁厚 t	−20			
						偏心量 d	300 以内			
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	9		鋼管矢板基礎工	基準高 ▽	±100	基準高は、全数を測定。 偏心量は、１基ごとに測定。	$d=\sqrt{x^2+y^2}$ 	
						根入長	設計値以上			
						偏心量 d	300 以内			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	5 石・ブロック積（張）工	3	1	コンクリートブロック工（コンクリートブロック積）（コンクリートブロック張り）	基準高 ▽		±50	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき１箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは１施工箇所につき２箇所。厚さは上端部及び下端部の２箇所を測定。		
						法長 ℓ	ℓ＜３m	−50			
							ℓ≧３m	−100			
						厚さ（ブロック積張）t_1		−50			
						厚さ（裏込）t_2		−50			
						延長 L		−200			
3 土木工事共通編	2 一般施工	5 石・ブロック積（張）工	3	2	コンクリートブロック工（連節ブロック張り）	基準高 ▽		±50	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき１箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは１施工箇所につき２箇所。		
						法長 ℓ		−100			
						延長 L_1, L_2		−200			
3 土木工事共通編	2 一般施工	5 石・ブロック積（張）工	3	3	コンクリートブロック工（天端保護ブロック）	基準高 ▽		±50	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき１箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは１施工箇所につき２箇所。		
						幅	w	−100			
						延長 L		−200			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	5 石・ブロック積（張）工	4		緑化ブロック工	基準高 ▽		±50	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき１箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは１施工箇所につき２箇所。厚さは上端部及び下端部の２箇所を測定。		
						法長 ℓ	ℓ＜3m	−50			
							ℓ≧3m	−100			
						厚さ（ブロック） t_1		−50			
						厚さ（裏込） t_2		−50			
						延長 L		−200			
3 土木工事共通編	2 一般施工	5 石・ブロック積（張）工	5		石積（張）工	基準高 ▽		±50	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき１箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは１施工箇所につき２箇所。厚さは上端部及び下端部の２箇所を測定。		
						法長 ℓ	ℓ＜3m	−50			
							ℓ≧3m	−100			
						厚さ（石積・張） t_1		−50			
						厚さ（裏込） t_2		−50			
						延長 L		−200			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値（X）		10個の測定値の平均（X_{10}）				
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	5	1	アスファルト舗装工（下層路盤工）	基準高▽	±40	±50	—	—	基準高は延長 40m毎に1箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは各車線 200m毎に1箇所を掘り起こして測定。幅は、延長 80m毎に1箇所の割に測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が、3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。	
						厚さ	−45	−45	−15	−15			
						幅	−50	−50	—	—			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	5	2	アスファルト舗装工（上層路盤工） 粒度調整路盤工	厚さ	−25	−30	−8	−10	幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、厚さは各車線 200m毎に1箇所を掘り起こして測定。		
						幅	−50	−50	—	—			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値（X）		10個の測定値の平均（X_{10}）				
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	5	3	アスファルト舗装工（上層路盤工）セメント（石灰）安定処理工	厚さ	−25	−30	−8	−10	幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 ㎡に1個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事といい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000ｔ以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
						幅	−50	−50	—	—			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	5	4	アスファルト舗装工（加熱アスファルト安定処理工）	厚さ	−15	−20	−5	−7	幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 ㎡に1個の割でコアーを採取して測定。		
						幅	−50	−50	—	—			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値（X）		10個の測定値の平均（X_{10}）				
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	5	5	アスファルト舗装工（基層工）	厚さ	－9	－12	－3	－4	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 ㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000ｔ以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工結果に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
						幅	－25	－25	—	—			
3 土木工事共通編通編	2 一般施工	6 一般舗装工	5	6	アスファルト舗装工（表層工）	厚さ	－7	－9	－2	－3	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 ㎡に1個の割でコアーを採取して測定。		
						幅	－25	－25	—	—			
						平坦性	—		3ｍﾌﾟﾛﾌｨﾙﾒｰﾀｰ（σ）2.4mm以下 直読式（足付き）（σ）1.75mm以下				

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値（X）		10個の測定値の平均（X_{10}）			
							中規模以上	小規模以下	中規模以上			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	6	1	コンクリート舗装工（下層路盤工）	基準高▽	±40	±50	—	基準高は延長 40m毎に1箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは各車線 200m毎に1箇所を掘り起こして測定。幅は、延長 80m毎に1箇所の割に測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2,000 ㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500ｔ未満あるいは施工面積が 2,000 ㎡未満。厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値（X_{10}）について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
						厚さ	−45		−15			
						幅	−50		—			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	6	2	コンクリート舗装工（粒度調整路盤工）	厚さ	−25	−30	−8	幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線 200m毎に1箇所を掘り起こして測定。		
						幅	−50		—			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値（X）		10個の測定値の平均（X_{10}）			
							中規模以上	小規模以下	中規模以上			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	6	3	コンクリート舗装工（セメント（石灰・瀝青）安定処理工）	厚さ	−25	−30	−8	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000㎡未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値（X_{10}）について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
						幅	−50		—			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	6	4	コンクリート舗装工（アスファルト中間層）	厚さ	−9	−12	−3	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。		
						幅	−25		—			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値（X）		10個の測定値の平均（X_{10}）			
							中規模以上	小規模以下	中規模以上			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	6	5	コンクリート舗装工（コンクリート舗装版工）	厚さ	―10		－3.5	厚さは各車線の中心付近で型枠据付後各車線 200m毎に水糸又はレベルにより1測線当たり横断方向に3箇所以上測定、幅は、延長 80m毎に1箇所の割で測定。平坦性は各車線毎に版縁から1mの線上、全延長とする。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が 2,000 ㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 ㎡未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値（X_{10}）について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
						幅	―25		―			
						平坦性	―		コンクリートの硬化後 3mプロフィルメーターにより機械舗設の場合（σ）2.4㎜以下 人力舗設の場合（σ）3㎜以下			
						目地段差	±2			隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	6	6	コンクリート舗装工（転圧コンクリート版工） 下層路盤工	基準高▽	±40	±50	―	基準高は、延長 40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。厚さは、各車線 200m毎に1箇所を掘り起こして測定。幅は、延長 80m毎に1箇所の割に測定。		
						厚さ	－45		－15			
						幅	－50		―			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	6	7	コンクリート舗装工（転圧コンクリート版工） 粒度調整路盤工	厚さ	－25	－30	－8	幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線 200m毎に1箇所を掘り起こして測定。		
						幅	－50		―			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値（X）		10個の測定値の平均（X_{10}）			
							中規模以上	小規模以下	中規模以上			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	6	8	コンクリート舗装工（転圧コンクリート版工） セメント（石灰・瀝青）安定処理工	厚さ	−25	−30	−8	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 ㎡に1個の割でコアーを採取もしくは、掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000 ㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t未満あるいは施工面積が2,000 ㎡未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値（X_{10}）について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
						幅	−50		—			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	6	9	コンクリート舗装工（転圧コンクリート版工） アスファルト中間層	厚さ	−9	−12	−3	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 ㎡に1個の割でコアーを採取して測定。		
						幅	−25		—			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	6	10	コンクリート舗装工（転圧コンクリート版工）	厚さ	−15		−4.5	厚さは、各車線の中心付近で型枠据付後各車線200m毎に水糸又はレベルにより1測線当たり横断方向に3箇所以上測定、幅は、延長80m毎に1箇所の割で測定、平坦性は各車線毎に版縁から1mの線上、全延長とする。		
						幅	−35		—			
						平坦性	—		転圧コンクリートの硬化後、3mプロフィルメーターにより(σ)2.4㎜以下。			
						目地段差	±2			隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値（X）		10個の測定値の平均（X_{10}）			
							中規模以上	小規模以下	中規模以上			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	1	薄層カラー舗装工（下層路盤工）	基準高▽	±40	±50	—	基準高は、延長 40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。厚さは、各車線 200m毎に1箇所を掘り起こして測定。幅は、延長 80m毎に1箇所の割に測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が 2,000 ㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 ㎡未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値（X_{10}）について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
						厚さ	−45		−15			
						幅	−50		—			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	2	薄層カラー舗装工（上層路盤工） 粒度調整路盤工	厚さ	−25	−30	−8	幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線 200m毎に1箇所を掘り起こして測定。		
						幅	−50		—			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値（X）		10個の測定値の平均（X_{10}）			
							中規模以上	小規模以下	中規模以上			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	3	薄層カラー舗装工（上層路盤工）セメント（石灰）安定処理工	厚さ	−25	−30	−8	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 ㎡に1個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000 ㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t未満あるいは施工面積が2,000 ㎡未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値（X_{10}）について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
						幅	−50		—			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	4	薄層カラー舗装工（加熱アスファルト安定処理工）	厚さ	−15	−20	−5	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 ㎡に1個の割でコアーを採取して測定。		
						幅	−50		—			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	5	薄層カラー舗装工（基層工）	厚さ	−9	−12	−3	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 ㎡に1個の割でコアーを採取して測定。		
						幅	−25		—			

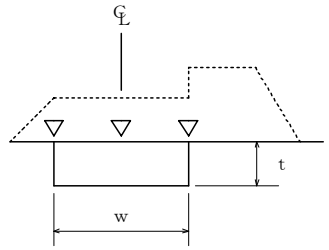
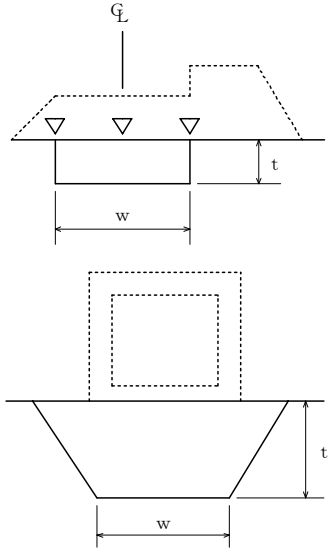
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値（X）		10個の測定値の平均（X_{10}）			
							中規模以上	小規模以下	中規模以上			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	8	1	ブロック舗装工（下層路盤工）	基準高▽	±40	±50	—	基準高は、延長 40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは、各車線 200m毎に1箇所を掘り起こして測定。 幅は、延長 80m毎に1箇所の割に測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が 2,000 ㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 ㎡未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値（X_{10}）について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
						厚さ	−45		−15			
						幅	−50		—			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	8	2	ブロック舗装工（上層路盤工） 粒度調整路盤工	厚さ	−25	−30	−8	幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線 200m毎に1箇所を掘り起こして測定。		
						幅	−50		—			

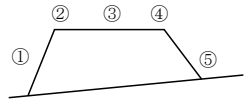
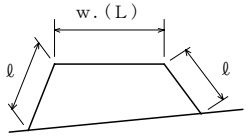
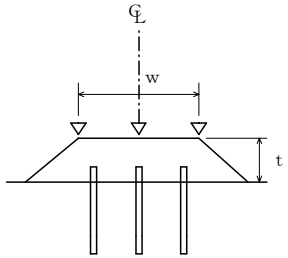
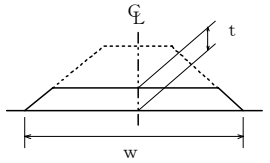
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値（X）		10個の測定値の平均（X_{10}）			
							中規模以上	小規模以下	中規模以上			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	8	3	ブロック舗装工（上層路盤工）セメント（石灰）安定処理工	厚さ	−25	−30	−8	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 ㎡に1個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000 ㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t未満あるいは施工面積が2,000 ㎡未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値（X_{10}）について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
						幅	−50		—			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	8	4	ブロック舗装工（加熱アスファルト安定処理工）	厚さ	−15	−20	−5	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 ㎡に1個の割でコアーを採取して測定。		
						幅	−50		—			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	8	5	ブロック舗装工（基層工）	厚さ	−9	−12	−3	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 ㎡に1個の割でコアーを採取して測定。		
						幅	−25		—			

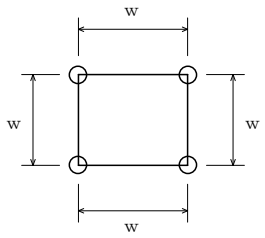
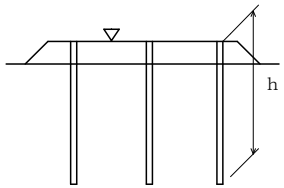
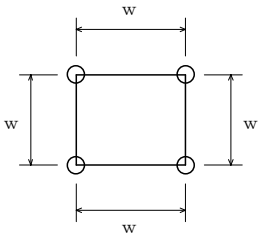
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	2		路床安定処理工	基準高 ▽	±50	延長 40m毎に１箇所の割で測定。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 厚さは中心線及び端部で測定。		
						施工厚さ t	−50			
						幅 w	−100			
						延長 L	−200			
3 土木工事共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	3		置換工	基準高 ▽	±50	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき１箇所、延長 40m（50m）以下のものは１施工箇所につき２箇所。 厚さは中心線及び端部で測定。		
						置換厚さ t	−50			
						幅 w	−100			
						延長 L	−200			

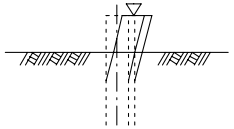
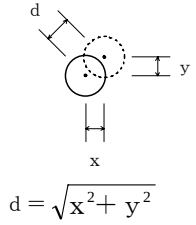
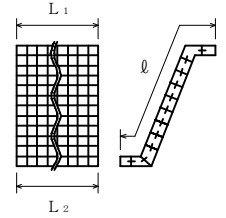
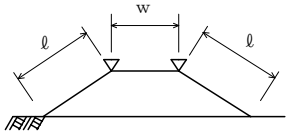
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	4	2	表層安定処理工（サンドマット海上）	基準高 ▽	特記仕様書に明示	施工延長 10mにつき、1測点当たり5点以上測定。		
						法長 ℓ	−500	w.（L）は施工延長 40mにつき1箇所、80m以下のものは1施工箇所につき3箇所。 （L）はセンターライン及び表裏法肩で行う。		
						天端幅 w	−300			
						天端延長 L	−500			
3 土木工事共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	5		パイルネット工	基準高 ▽	±50	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は50m）につき1箇所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。 杭については、当該杭の項目に準ずる。		
						厚さ t	−50			
						幅 w	−100			
						延長 L	−200			
3 土木工事共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	6		サンドマット工	施工厚さ t	−50	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は50m）につき1箇所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。		
						幅 w	−100			
						延長 L	−200			

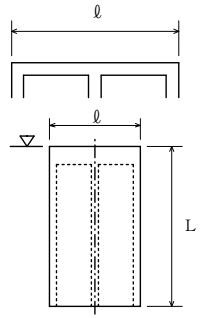
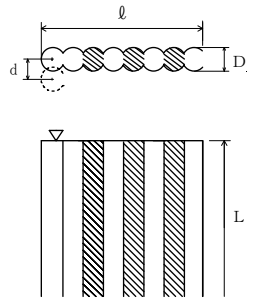
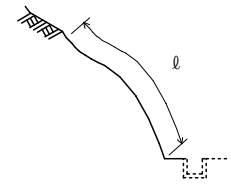
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	7		バーチカルドレーン工 (サンドドレーン工) (ペーパードレーン工) (袋詰式サンドドレーン工)	位置・間隔w	±100	100本に1箇所。 100 本以下は2箇所測定。1箇所に4本測定。 ただし、ペーパードレーンの杭径は対象外とする。		
						杭径 D	設計値以上	全本数		
						打込長さ h	設計値以上	全本数 計器管理にかえることができる。	 ※余長は、適用除外	
			8		締固め改良工 (サンドコンパクションパイル工)	サンドドレーン、袋詰式サンドドレーン、サンドコンパクションパイルの砂投入量	—			
3 土木工事共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	9		固結工 (粉体噴射撹拌工) (高圧噴射撹拌工) (スラリー撹拌工) (生石灰パイル工)	基準高 ▽	−50	100本に1箇所。 100本以下は2箇所測定。 1箇所に4本測定。		
						位置・間隔w	D/4以内			
						杭径 D	設計値以上	全本数		
						深度 ℓ	設計値以上			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	10 仮設工	5	1	土留・仮締切工 （H鋼杭） （鋼矢板）	基準高 ▽	±100	基準高は施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき１箇所。延長 40m（又は 50m）以下のものは、１施工箇所につき２箇所。 （任意仮設は除く）		
						根入長	設計値以上			
3 土木工事共通編	2 一般施工	10 仮設工	5	2	土留・仮締切工 （アンカー工）	削孔深さ ℓ	設計深さ以上	全数 （任意仮設は除く）		
						配置誤差 d	100			
3 土木工事共通編	2 一般施工	10 仮設工	5	3	土留・仮締切工 （連節ブロック張り工）	法長 ℓ	−100	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき１箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは１施工箇所につき２箇所。		
						延長 L_1 L_2	−200	１施工箇所毎		
3 土木工事共通編	2 一般施工	10 仮設工	5	4	土留・仮締切工 （締切盛土）	基準高 ▽	−50	施工延長 50mにつき１箇所。 延長 50m以下のものは１施工箇所につき２箇所。 （任意仮設は除く）		
						天端幅 w	−100			
						法長 ℓ	−100			

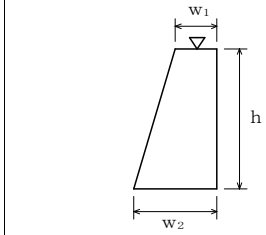
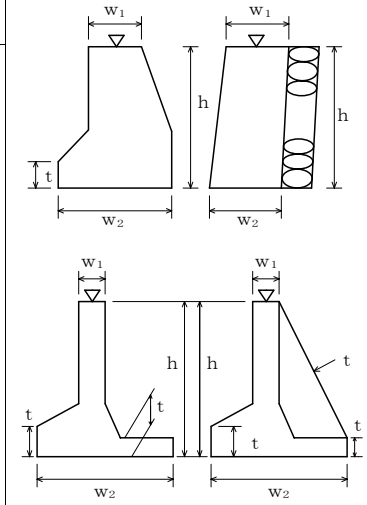
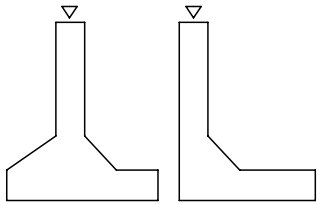
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	10 仮設工	5	5	土留・仮締切工（中詰盛土）	基準高 ▽		−50	施工延長 50mにつき１箇所。 延長 50m以下のものは、１施工箇所につき２箇所。 （任意仮設は除く）		
3 土木工事共通編	2 一般施工	10 仮設工	9		地中連続壁工（壁式）	基準高 ▽		±50	基準高は施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき１箇所。延長 40m（又は 50m）以下のものについては１施工箇所につき２箇所。 変位は施工延長 20m（測点間隔 25mの場合は 25m）につき１箇所。延長 20m（又は 25m）以下のものは１施工箇所につき２箇所。		
						連壁の長さ	ℓ	−50			
						変位		300			
						壁体長	L	−200			
3 土木工事共通編	2 一般施工	10 仮設工	10		地中連続壁工（柱列式）	基準高 ▽		±50	基準高は施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき１箇所。延長 40m（又は 50m）以下のものについては１施工箇所につき２箇所。 変位は施工延長 20m（測点間隔 25mの場合は 25m）につき１箇所。延長 20m（又は 25m）以下のものは１施工箇所につき２箇所。		D：杭径
						連壁の長さ	ℓ	−50			
						変位	d	D/4 以内			
						壁体長	L	−200			
3 土木工事共通編	2 一般施工	10 仮設工	22		法面吹付工	法長 ℓ	ℓ＜３m	−50	施工延長 40mにつき１箇所、40m以下のものは１施工箇所につき２箇所。		
							ℓ≧３m	−100			
						厚さ t	t＜５cm	−10	200 ㎡につき１箇所以上、200 ㎡以下は２箇所をせん孔により測定。		
							t≧５cm	−20			
							但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の 50%以上とし、平均厚は設計厚以上				
						延長	L	−200	１施工箇所毎		

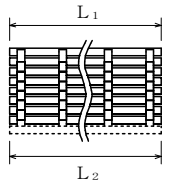
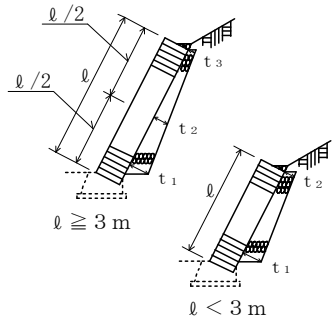
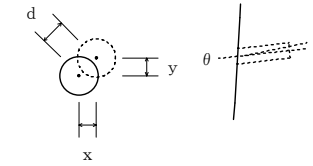
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	3 共通施工	1 共通関係	1		現場塗装工	塗膜厚	a．ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の 90%以上。 b．測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の 70%以上。 c．測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の 20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	塗装終了時に測定。 1ロットの大きさは 500 ㎡とする。 1ロット当たりの測定数は 25 点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。		

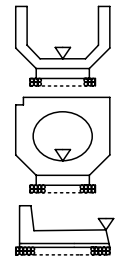
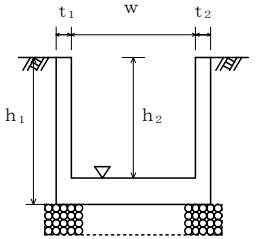
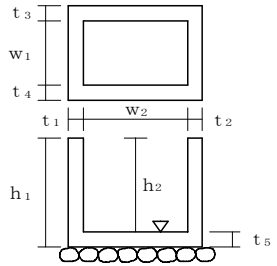
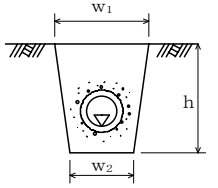
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	3 共通施工	1 共通関係	2		場所打擁壁工	基準高 ▽		±50	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき１箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは１施工箇所につき２箇所。		
						厚さ t		−20			
						裏込厚さ		−50			
						幅 w_1, w_2		−30			
						高さ h	h＜3m	−50			
							h≧3m	−100			
						延長 L		−200	１施工箇所毎		
3 土木工事共通編	3 共通施工	1 共通関係	3		プレキャスト擁壁工	基準高 ▽		±50	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき１箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは１施工箇所につき２箇所。		
						延長 L		−200	１施工箇所毎		

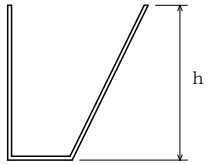
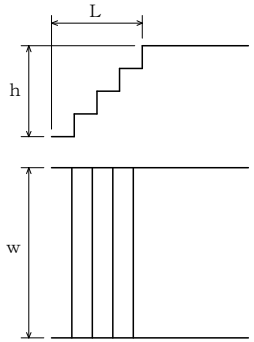
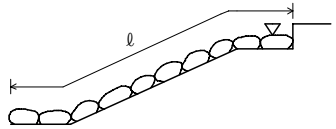
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	3 共通施工	1 共通関係	4		井桁ブロック工	基準高 ▽		±50	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき１箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは１施工箇所につき２箇所。		
						法長 ℓ	高さh＜3m	−50			
							高さh≧3m	−100			
						厚さ t_1, t_2, t_3		−50			
						延長 L_1, L_2		−200	１施工箇所毎		
3 土木工事共通編	3 共通施工	1 共通関係	5		アンカー工	削孔深さ	ℓ	設計値以上	全数（任意仮設は除く）	 $d=\sqrt{x^2+y^2}$	
						配置誤差	d	100			
						せん孔方向	θ	±2.5度			

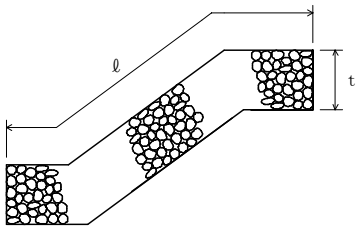
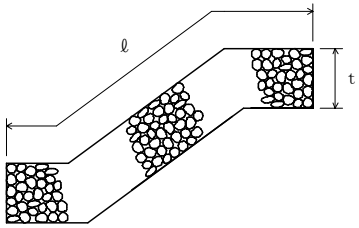
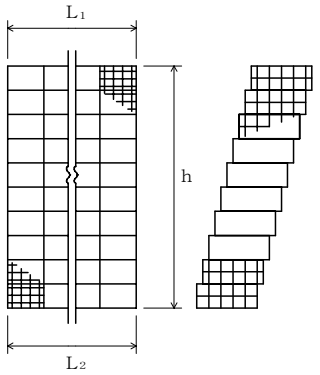
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工　　種	測 定 項 目	規 格 値	測　定　基　準	測　定　箇　所	摘　要
3 土木工事共通編	3 共通施工	1 共通関係	6		側溝工 (プレキャストU型側溝) (Ｌ型側溝工) (自由勾配側溝) (管渠)	基 準 高 ▽	±30	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき１箇所、施工延長 40m（又は 50m）以下のものは１施工箇所につき２箇所。 １箇所／１施工箇所		
						延　　長 L	－200			
3 土木工事共通編	3 共通施工	1 共通関係	7		現場打水路工	基 準 高 ▽	±30	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき１箇所、施工延長 40m（又は 50m）以下のものは１施工箇所につき２箇所。 １施工箇所毎		
						厚 さ t1, t2	－20			
						幅　　w	－30			
						高 さ h1, h2	－30			
						延　　長 L	－200			
3 土木工事共通編	3 共通施工	1 共通関係	8		集水桝工	基 準 高 ▽	±30	１箇所毎 ※は、現場打部分のある場合		
						※厚さ t1～t5	－20			
						※幅 w1, w2	－30			
						※高さ h1, h2	－30			
3 土木工事共通編	3 共通施工	1 共通関係	9		暗渠工	基 準 高 ▽	±30	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は50m）につき１箇所。 延長 40m（又は 50m）以下のものは１施工につき２箇所。 （なお、製品使用の場合は、製品寸法は、規格証明書等による。） １施工箇所毎		
						幅 w1, w2	－50			
						深　　さ h	－30			
						延　　長 L	－200			

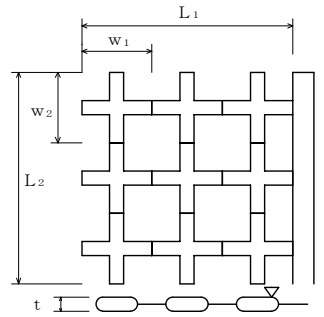
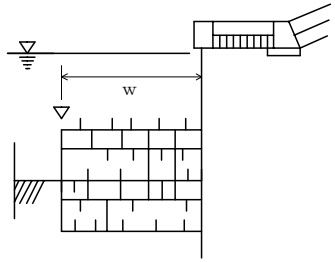
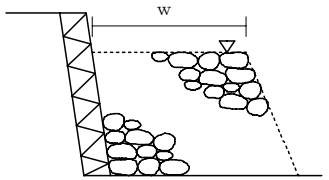
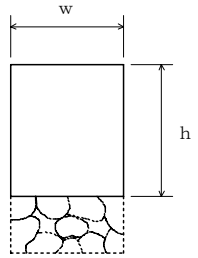
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	3 共通施工	1 共通関係	10		刃口金物製作工	刃口高さ h（m）	±2…… h≦0.5 ±3…… 0.5<h≦1.0 ±4…… 1.0<h≦2.0	図面の寸法表示箇所で測定。		
						外周長L（m）	±(10+L/10)			
3 土木工事共通編	3 共通施工	1 共通関係	11		階段工	幅 w	−30	1回／1施工箇所		
						高さ h	−30			
						長さ L	−30			
						段数	±0段			
3 土木工事共通編	3 共通施工	2 河川関係	1		巨石張り、巨石積み	基準高 ▽	±500	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき1箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						法長 ℓ	−200			
						延長 L	−200			

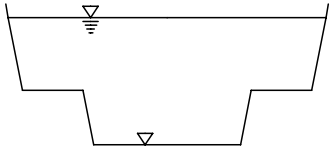
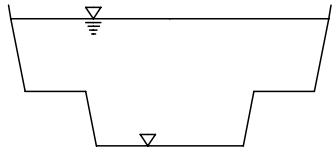
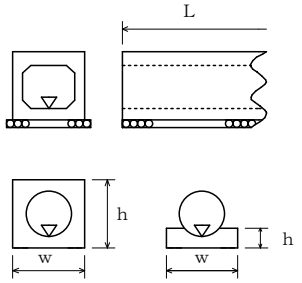
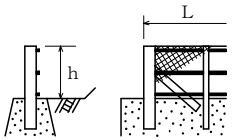
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	3 共通施工	2 河川関係	2		かごマット	法長 ℓ		−100	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき１箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは１施工箇所につき２箇所。		
						厚さ t		−0.2t			
						延長 L		−200			
3 土木工事共通編	3 共通施工	2 河川関係	3		じゃかご	法長 ℓ	ℓ＜3m	−50	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき１箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは１施工箇所につき２箇所。		
							ℓ≧3m	−100			
						厚さ t		−50			
3 土木工事共通編	3 共通施工	2 河川関係	4		ふとんかご、かご枠	高さ h		−100	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき１箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは１施工箇所につき２箇所。		
						延長 L_1, L_2		−200			

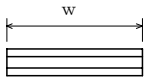
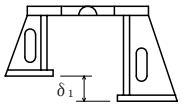
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	3 共通施工	2 河川関係	5		根固めブロック工	基準高▽	層積	±100	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
							乱積	±t/2			
						厚さ t		−20	幅、厚さは 40 個につき 1 箇所測定。		
						幅 w1 w2	層積	−20			
							乱積	−t/2			
						延長 L1 L2	層積	−200	1 施工箇所毎		
							乱積	−t/2			
3 土木工事共通編	3 共通施工	2 河川関係	6		沈床工	基準高 ▽		±150	1 組毎		
						幅 w		±300			
						延長 L		−200			
3 土木工事共通編	3 共通施工	2 河川関係	7		捨石工	基準高 ▽		−100	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
						幅 w		−100			
						延長 L		−200			
3 土木工事共通編	3 共通施工	2 河川関係	8		護岸付属物工	幅 w		−30	各格子間の中央部 1 箇所を測定。		
						高さ h		−30			

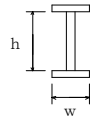
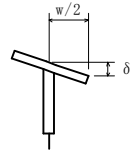
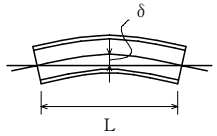
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目			規格値 上限	規格値 下限	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	3 共通施工	3 海岸関係	1	1	浚渫船運転工（ポンプ浚渫船）				上限	下限	延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横断方向は、５ｍ毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。		
						基準高▽	電気船	200ps	＋200	－800			
								500ps	＋200	－1000			
								1000ps	＋200	－1200			
							ディーゼル船	250ps	＋200	－800			
								420ps 600ps	＋200	－1000			
								1350ps	＋200	－1200			
						幅			－200				
						延長			－200				
3 土木工事共通編	3 共通施工	3 海岸関係	1	2	浚渫船運転工（グラブ船）	基準高▽			上限 ＋200		延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横断方向は、５ｍ毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。		
						幅			－200				
						延長			－200				
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	1		プレキャストカルバート工（プレキャストボックス工）(プレキャストパイプ工)	基準高▽			±30		施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は50ｍ）につき１箇所、施工延長 40m（又は 50m）以下のものは１施工箇所につき２箇所。 ※印は、現場打部分のある場合。 １施工箇所毎		
						※幅		w	－50				
						※高さ		h	－30				
						延長		L	－200				
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	2		落石防護柵工	高さ		h	±30		施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は50ｍ）につき１箇所、施工延長 40m（又は 50m）以下のものは１施工箇所につき２箇所。 １施工箇所毎		
						延長		L	－200				

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	3		検査路製作工	部材	部材長ℓ（m）	±3……ℓ≦10 ±4……ℓ＞10	図面の寸法表示箇所で測定。		
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	4		鋼製伸縮継手製作工	部材	部材長w（m）	0～＋30	製品全数を測定。		
						仮組立時	組合せる伸縮装置との高さの差 δ_1（mm）	設計値 ±4	両端及び中央部付近を測定。		
							フィンガーの食い違い δ_2（mm）	±2		（実測値）δ_2 	
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	5		落橋防止装置製作工	部材	部材長ℓ（m）	±3……ℓ≦10 ±4……ℓ＞10	図面の寸法表示箇所で測定。		
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	6		鋼製排水管製作工	部材	部材長ℓ（m）	±3……ℓ≦10 ±4……ℓ＞10	図面の寸法表示箇所で測定。		

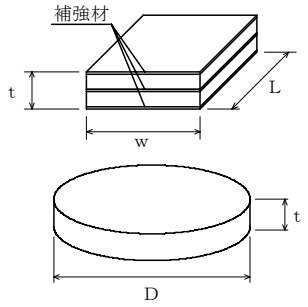
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	7		プレビーム用桁製作工	部材	フランジ幅 w（m） 腹板高 h（m）	±2…w≦0.5 ±3…0.5＜w≦1.0 ±4…1.0＜w≦2.0 ±（3＋w／2）…2.0＜w	各支点及び各支間中央付近を測定。	I型鋼げた	
						部材	フランジの直角度 δ（mm）	w／200	各支点及び各支間中央付近を測定。		
						部材	部材長 ℓ（m）	±3…ℓ≦10 ±4…ℓ＞10	原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で測定。		
						仮組立時	主げたのそり	－5～＋5…L≦20 －5～＋10…20＜L≦40	各主げたについて 10～12m間隔を測定。		
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	8		橋梁用防護柵製作工	部材	部材長 ℓ（m）	±3……ℓ≦10 ±4……ℓ＞10	図面の寸法表示箇所で測定。		

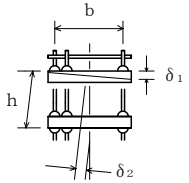
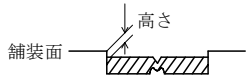
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目			規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	9	1	鋳造費 （金属支承工）	上下部鋼構造物との接合用ボルト孔	孔の直径差		＋2 －0	製品全数を測定。		
							中心距離	センターボスを基準にした孔位置のずれ				
								≦1000㎜	1以下			
								センターボスを基準にした孔位置のずれ				
								＞1000㎜	1.5以下			
						アンカーボルト用孔（鋳放し）	孔の直径	≦100㎜	＋3 －1			
								＞100㎜	＋4 －2			
							孔の中心距離		JIS B 0403-95 CT13			
						センターボス	ボスの直径		＋0 －1			
							ボスの高さ		＋1 －0			

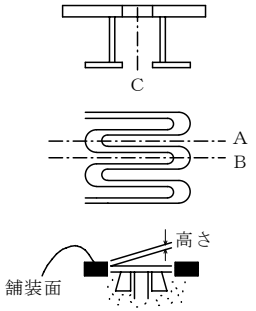
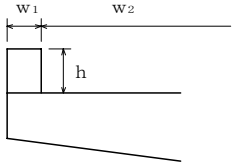
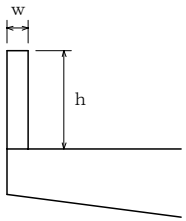
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目			規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	9	1	鋳造費 （金属支承工）	上沓の橋軸及び直角方向の長さ寸法			JIS B 0403-95 CT13	製品全数を測定。 ※ 1）片面削り加工も含む。 ※ 2）ただし、ソールプレート接触面の橋軸及び橋軸直角方向の長さ寸法に対してはCT13を適用する。		
						移動量ℓ	ℓ≦300mm		±２			
							ℓ＞300mm		±ℓ／100			
						組立高さH	上、下面加工仕上げ		±３			
							コンクリート構造用	H≦300mm	±３			
								H＞300mm	(H/200+3) 小数点以下切り捨て			
						普通寸法	鋳放し長さ寸法 ※1)、※2)		JIS B 0403-95 CT14			
							鋳放し肉厚寸法 ※1)		JIS B 0403-95 CT15			
							削り加工寸法		JIS B 0405-91 粗級			
							ガス切断寸法		JIS B 0417-79 B級			
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	9	2	鋳造費 （大型ゴム支承工）	幅w 長さL 直径D	w，L，D≦500		０～＋５	製品全数を測定。 平面度：１個のゴム支承の厚さ（ｔ）の最大相対誤差		
							500＜w，L，D≦1500mm		０～＋１％			
							1500＜w，L，D		０～＋15			
						厚さt	t≦20mm		±0.5			
							20＜t≦160		±2.5%			
							160＜t		±４			
						平面度			1			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	10		アンカーフレーム製作工	仮組立時	上面水平度 δ_1 (mm)	b／500	軸心上全数測定。		
							鉛直度 δ_2 (mm)	h／500			
							高さ h (mm)	±5			
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	11		仮設材製作工	部材	部材長 ℓ (m)	±3…… ℓ≦10 ±4…… ℓ＞10	図面の寸法表示箇所で測定。		
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	12		床版・横組工	基準高 ▽		±20	基準高は、1径間当たり2箇所（支点付近）で、1箇所当たり両端と中央部の3点、幅は1径間当たり3箇所、厚さは型枠設置時におおむね 10 ㎡に1箇所測定。 （床版の厚さは、型枠検査をもって代える。）		
						幅	w	0～＋30			
						厚さ	t	－10～＋20			
						鉄筋のかぶり		設計値以上	1径間当たり3断面（両端及び中央）測定。1断面の測定箇所は断面変化毎1箇所とする。		
						鉄筋の有効高さ		±10			
						鉄筋間隔		±20	1径間当たり3箇所（両端及び中央）測定。 1箇所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎に2mの範囲を測定。		
							上記、鉄筋の有効高さがマイナスの場合	±10			
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	13	1	伸縮装置工（ゴムジョイント）	据付け高さ		舗装面に対し 0～－2	両端及び中央部付近を測定。		
						表面の凹凸		3			
						仕上げ高さ		舗装面に対し 0～－2			

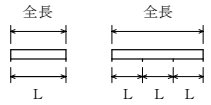
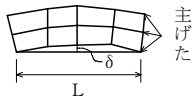
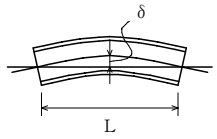
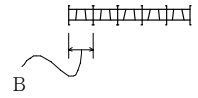
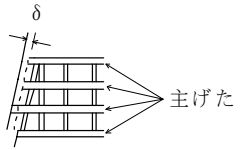
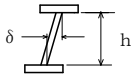
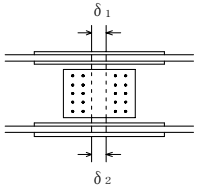
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	13	2	伸縮装置工（鋼製フィンガージョイント）	高さ 据付け高さ	±3	高さについては車道端部、中央部各3点計9点。 縦方向及び横方向間隔は両端、中央部の計3点。		
						高さ 車線方向各点誤差の相対差	3			
						表面の凹凸	3			
						歯型板面の歯咬み合い部の高低差	2			
						縦方向間隔	±2			
						横方向間隔	±5			
						仕上げ高さ	舗装面に対し0～－2			
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	14		地覆工	地覆の幅 w_1	－10～＋20	1径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		
						地覆の高さ h	－10～＋20			
						有効幅員 w_2	0～＋30			
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	15		橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工	幅 w	－5～＋10	1径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		
						高さ h	－20～＋30			
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	16		検査路工	幅	±3	1ブロックを抽出して測定。		
						高さ	±4			

単位：mm

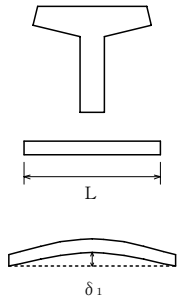
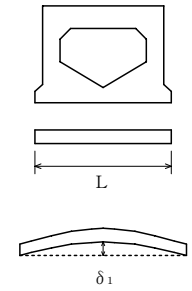
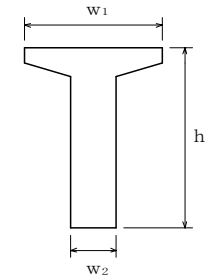
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値 コンクリート橋	規格値 鋼橋	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	17	1	支承工（鋼製支承）	据付け高さ 注1)	±5		支承全数を測定。 B：支承中心間隔（m） 支承の平面寸法が 300㎜ 以下の場合は、水平面の高低差を 1㎜ 以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注 1) 先固定の場合は、支承上面で測定する。 注 2) 可動支承の遊間（La,Lb）を計測し、支承据付時のオフセット量δを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注 3) 可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。		
						可動支承の移動可能量 注2)	設計移動量 ＋10 以上				
						支承中心間隔（橋軸直角方向）	±5	4＋0.5×(B−2)			
						下沓の水平度 橋軸方向	1／100				
						下沓の水平度 橋軸直角方向					
						可動支承の橋軸方向のずれ 同一支承線上の相対誤差	5				
						可動支承の移動量 注3)	温度変化に伴う移動量計算値の 1/2 以上				
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	17	2	支承工（ゴム支承）	据付け高さ 注1)	±5		支承全数を測定。 上部構造部材下面とゴム支承面との接触面及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認。 支承の平面寸法が 300㎜ 以下の場合は、水平面の高低差を 1㎜ 以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注 1) 先固定の場合は、支承上面で測定する。 注 2) 可動支承の遊間（La,Lb）を計測し、支承据付時のオフセット量δを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注 3) 可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。		
						可動支承の移動可能量 注2)	設計移動量 ＋10 以上				
						支承中心間隔（橋軸直角方向）	±5	4＋0.5×(B−2)			
						支承の水平度 橋軸方向	1／300				
						支承の水平度 橋軸直角方向					
						可動支承の橋軸方向のずれ 同一支承線上の相対誤差	5				
						可動支承の移動量 注3)	温度変化に伴う移動量計算値の 1/2 以上				

単位：mm

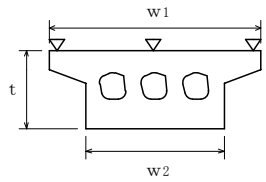
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	18		架設工（鋼橋） （クレーン架設） （ケーブルクレーン架設） （ケーブルエレクション架設） （架設桁架設） （送出し架設） （トラベラークレーン架設）	全長・支間長Ｌ（m）	±(20+L/5)	各けた毎に全数測定。 L：主げた・主構の支間長(m)		
						通り δ（mm）	±(10+2L/5)	L：主げた・主構の支間長(m)		
						そり δ（mm）	±(25+L/2)	主げた、主構を全数測定。 L：主げた・主構の支間長(m)		
						※主げた、主構の中心間距離B(m)	±4..... B≦2 ±(3+B/2)..... B＞2	各支点及び各支間中央付近を測定。		
						※主げたの橋端における出入差 δ（mm）	設計値 ±10	どちらか一方の主げた（主構）端を測定。		
						※主げた、主構の鉛直度 δ（mm）	3+h/1,000	各主げたの両端部を測定。 h：主げた・主構の高さ(mm)		
						※現場継手部のすき間 δ_1, δ_2（mm）	設計値 ±5	主げた、主構の全継手数の１／２を測定。 δ1, δ2のうち大きいもの 設計値が 5 mm以下の場合は、マイナスを認めない。		
								※は仮組立検査を実施しない工事に適用。		

※規格値のL，Bに代入する数値はm単位の数値である。
ただし、「主げた、主構の鉛直度δ」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。

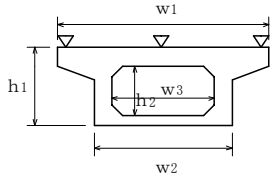
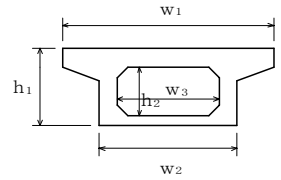
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	19	1	プレテンション桁製作工（購入工） （けた橋）	桁長　L（m）	±L／1000	桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS 製品の場合は、JIS 認定工場の成績表にかえることができる。 JIS 製品以外は JIS 製品に準ずる。		
						断面の外形寸法	±５			
						橋桁のそり δ_1	±８			
						横方向の曲がり δ_2	±10			
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	19	2	プレテンション桁製作工（購入工） （スラブ桁）	桁長　L（m）	±10…　L≦10m ±L/1000…　L＞10m	桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS 製品の場合は、JIS 認定工場の成績表にかえることができる。 JIS 製品以外は JIS 製品に準ずる。		
						断面の外形寸法	±５			
						橋桁のそり δ_1	±８			
						横方向の曲がり δ_2	±10			
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	20		ポストテンション桁製作工	幅（上）　w_1	＋10 －５	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の３箇所とする。 ℓ：支間長（m）		
						幅（下）　w_2	±５			
						高　さ　h	＋10 －５			
						桁長　ℓ 支間長	ℓ＜15…±10 ℓ≧15…±（ℓ－５） かつ －30㎜以内			
						横方向最大タワミ	0.8ℓ			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	21		プレキャストセグメント製作工（購入工）	桁長 ℓ	—	桁全数について測定。桁断面寸法測定箇所は、図面の寸法表示箇所で測定。		
						断面の外形寸法（mm）	—			
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	22		プレキャストセグメント主桁組立工	桁長 ℓ 支間長	ℓ＜15…±10 ℓ≧15…±（ℓ－5）かつ－30mm以内	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 ℓ：支間長（m）		
						横方向最大タワミ	0.8ℓ			
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	23		PCホロースラブ製作工	基準高 ▽	±20	桁全数について測定。 基準高は、1径間当たり2箇所（支点付近）で1箇所当たり両端と中央部の3点、幅及び厚さは1径間当たり両端と中央部の3箇所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第3編3－4－12 床版・横組工に準ずる。 ℓ：桁長（m）		
						幅 w_1, w_2	－5～＋30			
						厚さ t	－10～＋20			
						桁長 ℓ	ℓ＜15…±10 ℓ≧15…±（ℓ－5）かつ－30以内			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	24		ＰＣ箱桁製作工	基準高	±20	桁全数について測定。 基準高は、１径間当たり２箇所（支点付近）で１箇所当たり両端と中央部の３点、幅及び高さは１径間当たり両端と中央部の３箇所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第３編３－４－12 床版・横組工に準ずる。 ℓ：桁長（m）		
						幅（上） w_1	－５～＋30			
						幅（下） w_2	－５～＋30			
						内空幅 w_3	±５			
						高さ h_1	＋10 －５			
						内空高さ h_2	＋10 －５			
						桁長 ℓ	ℓ＜15…±10 ℓ≧15…±(ℓ－5) かつ －30 以内			
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	25		ＰＣ押出し箱桁製作工	幅（上） w_1	－５～＋30	桁全数について測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の３箇所とする。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第３編３－４－12 床版・横組工に準ずる。 ℓ：桁長（m）		
						幅（下） w_2	－５～＋30			
						内空幅 w_3	±５			
						高さ h_1	＋10 －５			
						内空高さ h_2	＋10 －５			
						桁長 ℓ	ℓ＜15…±10 ℓ≧15…±(ℓ－5) かつ －30 以内			
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	26		架設工（コンクリート橋） （クレーン架設） （架設桁架設） 架設工支保工 （固定） （移動） 架設桁架設 （片持架設） （押出し架設）	全長・支間	—	各桁毎に全数測定。		
						桁の中心間距離	—	一連毎の両端及び支間中央について各上下間を測定。		
						そり	—	主桁を全数測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値（X）		10個の測定値の平均（X_{10}）				
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下			
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	27	1	半たわみ性舗装工（下層路盤工）	基準高▽	±40	±50	—	—	基準高は延長 40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは各車線 200m毎に1箇所を掘り起こして測定。 幅は、延長 80m毎に1箇所の割に測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000ｔ以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。	
						厚さ	−45	−45	−15	−15			
						幅	−50	−50	—	—			
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	27	2	半たわみ性舗装工（上層路盤工） 粒度調整路盤工	厚さ	−25	−30	−8	−10	幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線 200m毎に1箇所を掘り起こして測定。		
						幅	−50	−50	—	—			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値（X）		10個の測定値の平均（X_{10}）				
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下			
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	27	3	半たわみ性舗装工（上層路盤工） セメント（石灰）安定処理工	厚さ	−25	−30	−8	−10	幅は、延長 80ｍ毎に１箇所の割とし、厚さは、1000 ㎡に１個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000ｔ以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
						幅	−50	−50	—	—			
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	27	4	半たわみ性舗装工（加熱アスファルト安定処理工）	厚さ	−15	−20	−5	−7	幅は、延長 80ｍ毎に１箇所の割とし、厚さは、1000 ㎡に１個の割でコアーを採取して測定。		
						幅	−50	−50	—	—			
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	27	5	半たわみ性舗装工（基層工）	厚さ	−9	−12	−3	−4	幅は、延長 80ｍ毎に１箇所の割とし、厚さは、1000 ㎡に１個の割でコアーを採取して測定。		
						幅	−25	−25	—	—			
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	27	6	半たわみ性舗装工（表層工）	厚さ	−7	−9	−2	−3	幅は、延長 80ｍ毎に１箇所の割とし、厚さは、1000 ㎡毎に１個の割でコアーを採取して測定。		
						幅	−25	−25	—	—			
						平坦性	—		3ｍﾌﾟﾛﾌｨﾙﾒｰﾀｰ（σ）2.4㎜以下直読式 （足付き）（σ）1.75㎜ 以下				

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値（X）		10個の測定値の平均（X_{10}）				
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下			
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	28	1	排水性舗装工（下層路盤工）	基準高▽	±40	±50	—	—	基準高は延長 40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは各車線 200m毎に1箇所を掘り起こして測定。 幅は、延長 80m毎に1箇所の割に測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000ｔ以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
						厚さ	−45	−45	−15	−15			
						幅	−50	−50	—	—			
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	28	2	排水性舗装工（上層路盤工）粒度調整路盤工	厚さ	−25	−30	−8	—10	幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線 200m毎に1箇所を掘り起こして測定。		
						幅	−50	−50	—	—			
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	28	3	排水性舗装工（上層路盤工）セメント（石灰）安定処理工	厚さ	−25	−30	−8	−10	幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1000 ㎡に1個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。		
						幅	−50	−50	—	—			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値（X）		10個の測定値の平均（X_{10}）				
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下			
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	28	4	排水性舗装工（加熱アスファルト安定処理工）	厚さ	−15	−20	−5	−7	幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1000 ㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
						幅	−50	−50	—	—			
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	28	5	排水性舗装工（基層工）	厚さ	−9	−12	−3	−4	幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1000 ㎡に1個の割でコアーを採取して測定。		
						幅	−25	−25	—	—			
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	28	6	排水性舗装工（表層工）	厚さ	−7	−9	−2	−3	幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1000 ㎡毎に1個の割でコアーを採取して測定。		
						幅	−25	−25	—	—			
						平坦性	—		3m プロフィルメーター (σ)2.4mm 以下 直読式 (足付き) (σ)1.75mm 以下				

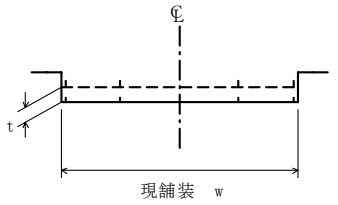
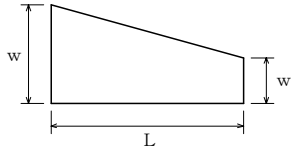
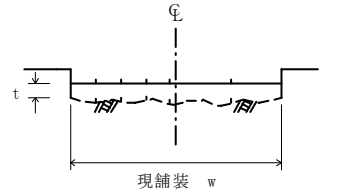
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値（X）		10個の測定値の平均（X_{10}）				
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下			
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	29	1	グースアスファルト舗装工（加熱アスファルト安定処理工）	厚さ	−15	−20	−5	−7	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000ｔ以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
						幅	−50	−50	—	—			
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	29	2	グースアスファルト舗装工（基層工）	厚さ	−9	−12	−3	−4	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。		
						幅	−25	−25	—	—			
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	29	3	グースアスファルト舗装工（表層工）	厚さ	−7	−9	−2	−3	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1000㎡毎に1個の割でコアーを採取して測定。		
						幅	−25	−25	—	—			
						平坦性	—		3mﾌﾟﾛﾌｨﾙﾒｰﾀｰ（σ）2.4mm以下直読式（足付き）（σ）1.75mm以下				

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値（X）		平均の測定値（X_{10}）			
							中規模以上	小規模以下	中規模以上			
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	30	1	透水性舗装工（路盤工）	基準高▽	±50		—	基準高は片側延長 40m 毎に1箇所の割で測定。 厚さは、片側延長 200m 毎に1箇所掘り起こして測定。 幅は、片側延長 80m 毎に1箇所測定。 ※歩道舗装に適用する。		
						厚さ	t＜15cm	−30	−10			
							t≧15cm	−45	−15			
						幅	−100		—			
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	30	2	透水性舗装工（表層工）	厚さ	−9		−3	幅は、片側延長 80m 毎に1箇所の割で測定。 厚さは、片側延長 200m 毎に1箇所コアーを採取して測定。 ※歩道舗装に適用する。		
						幅	−25		—			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値 個々の測定値（X）	規格値 平均の測定値（X_{10}）	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	31		路面切削工	厚さ t		－7	－2	厚さは 40m毎に現舗装高切削後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 延長 40m未満の場合は、２箇所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。 測定方法は自動横断測定法によることが出来る。		
						幅 w		－25	—			
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	32		舗装打換え工	路盤工	幅 w	－50		各層毎１箇所／１施工箇所		
							延長L	－100				
							厚さt	該当工種				
						舗設工	幅 w	－25				
							延長L	－100				
							厚さt	該当工種				
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	33		オーバーレイ工	厚さ t		－9		厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に１箇所の割とし、延長 80m未満の場合は、２箇所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。		
						幅 w		－25				
						延長 L		－100				
						平坦性		—	3mﾌﾟﾛﾌｨﾙﾒｰﾀｰ（σ）2.4mm 以下 直読式 (足付き) （σ）1.75mm 以下			
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	34		落橋防止装置工	アンカーボルト孔の削孔長		設計値以上		全数測定		
						アンカーボルト定着長		－20 以内 かつ －1D以内		全数測定 D：アンカーボルト径（mm）		